

思いのこもった採用・就職活動とは

－ひとづくり地域戦略会議で考える－

開倫塾

塾長 林明夫

Q：ひとづくり地域戦略会議とは何ですか。

A：(林明夫：以下省略)経済産業省のサービス政策課が、昨年来全国各地で開催し、各地の企業、学校、自治体の方々と、今と未来を見据えた採用活動はどうあるべきかの議論を重ねてきた会議です。

4月23日には、全国各地から170名余の方々が集まり、そのひとづくり地域戦略会議を束ねる「ひとづくり地域戦略会議連絡会」が経済産業省本館地下2F講堂で開催されました。思いのこもった採用・就職活動を実現するために、関係者が地域を越えて広く連携し、情報交換、意見交換が活発に行われました。

私にも発表の機会が与えられました。

Q：林さんはどのような発表をしたのですか。

A：キャリア形成は、職業選択や勤労、幸福追求の基本。職業選択の自由、勤労の権利、幸福追求権の前提として、自らのキャリアを自己形成するキャリア権が新しい基本的人権の一つとしてあると考えます。

OECDのBetter Life Index(よりよい暮らし指標)にも、収入や雇用、社会との繋がりという意味での共同体、教育、生活の満足度、ワーク・ライフバランスなど就業やキャリア形成に関係するものが入っています。

国際競争力のある地域づくりは、ひとづくりを戦略的に行うこと、地域が戦略的にキャリア形成を支援し、キャリア権の実現を図ることだと考えます。

Q：キャリア権ですか。あまり聞いたことのない考え方ですが、林さんはどこで知ったのですか。

A：キャリア権研究会で、法政大学大学院政策創造研究科教授の諏訪康雄先生からキャリア権を学びました。働く人々の多様なキャリア形成を尊重し、支援する企業や地域づくりが大切だと考えます。

Q：林さんは具体的にはどのような取り組みをしていますか。

A：公益社団法人の経済同友会、学校と経営者の交流活動推進委員会では、中学校や高校で年に200回位出張授業を行い、仕事とは何かを経営者の立場でお話しています。群馬経済同友会でも同様の取り組みをしています。

公益社団法人栃木県経済同友会には、大学や短期大学、大学院の正規の授業にオムニバス、つ

まり、交替で企業経営者をボランティアプロフェッサー(講師)として派遣するプログラムがあります。

社団法人栃木県経営者協会では、就職支援セミナーやインターンシップの受け入れを積極的に行っています。

足利市商工会議所では、「足利 5S 学校」を開催。小学生や中学生、高校生、大学生、短大生、専門学校生にも「5S」、つまり、整理・整頓・清掃・清潔・躰を指導しています。

日本最古の学校、足利学校のある街として、足利学校で教え広めた論語の素読を街中で行っていますので、「論語と 5S」を就職活動に役立ててもらおうとの取り組みも盛んです。

中堅社員のキャリア形成の支援のために、産業界が地元の宇都宮大学大学院、白鷗大学大学院、作新学院大学大学院と協力して「とちぎ MOT プログラム」を一昨年からスタート。半期 90 分、15 回のエッセンシャルコース I、II とアドバンスコースの 3 つのコースをスタートさせ、3 大学院の社会人入学との連結をはかろうとしています。

今後は COOP 教育(協同教育)といって大学等の教育機関が主体となり、産学連携により専門分野に関連した職業体験を教育プログラムとして行う教育です。アメリカではコミュニティ・カレッジにおいて主に行われているようです。これは、日本でも求められると思います。

コミュニティ・カレッジのマネジメントについては、全日本大学開放機構で長年研究がなされ、セミナーも年何回か開催されています。

Q：学習塾、予備校、私立学校の経営者や経営幹部の先生方にお伝えしたいことはありますか。

A：4月20日に霞ヶ関の法曹会館で開かれた東京キワニスクラブの例会で、「日本初、年中無休、24時間体制の予備校の社会的使命とは」という演題で、福井予備校理事長の松田正人先生の講演をお聞きしました。高校卒業資格を取って大学や専門学校に進学するために、働きながら高校卒業認定試験や入学試験の勉強をする多くの若者を、長年、365日休みなし、24時間体制で支援なさっておられる松田先生の御指導には頭が下がるばかりです。

松田先生ほどはできなくても、教え子のキャリア支援を通してキャリア権を実現するために、我々のできることは数多くありそうです。

ひとつづくりを地域が戦略的に行う担い手としては、民間教育機関の我々が最もふさわしいかもしれません。時代が最も求めるコミュニティ・カレッジなども、我々の現在の事業の延長上でどんどん展開すべきだと考えます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：ここまでお話しすれば、今月のおすすめの一冊目は、石弘光先生の「新・学問のススめー生涯学習のこれから」講談社現代新書 2012年3月20日刊となります。一橋大学学長を御退任後、放送大学学長をお務めになった石先生の遠隔教育手段を用いた教育の日本と世界の現状と未来のお話は、極めて示唆に富みます。二冊目は、私の尊敬する元マッキンゼー日本支社長で、現在は東京大学 EMP(イグゼクティブ・マネジメント・プログラム)の企画・推進者の横山禎徳先生の「循環思考」東洋経済新報社 2012年4月12日刊です。ロジックだけでは解決しない複雑な問題を解決する技術として、循環思考をまとめられました。待望の書です。是非、御一読を。

— 2012年4月23日、林明夫記 —